**一人で、人のいないところへ行ってはいけない**

 　　　　 川西市立多田小学校

 校長　織 田　克 巳

　**１．子どもをねらった二つの事件**

　９月に入って、連日のように子どもをめぐる事件の報道に接しています。幼い子どもが被害者となる「連れ去り（誘拐）事件」や「監禁事件」はなかなか後を絶ちません。

　広島市では４日夜に、バス停で母親の迎えを待っていた小学６年生の女児が連れ去られる事件が起きたばかり。塾帰りの女児を大型のかばんに詰め込み、タクシーに乗せて連れ去ろうとした手口に、送迎の保護者や住民らは不安を募らせました。犯人は２０歳の大学生でした。

　また、名古屋市では３日朝、登校中の小学１年生の女児がマンションに監禁されるという事件が起こりました。学校から「学校に来ていない」との連絡を受けた母親が１１０番し、１２時間後無事に発見されました。犯人は同じマンションに住む２３歳の男性でした。

　二つの事件には、抵抗力のない子どもを性の対象とする「ねじれた性」を感じさせます。子どもたちは無事に保護されましたが、もしものことを想うとほんとうに恐ろしいことです。

**２．なかなか減らない性犯罪**

　犯行の動機や連れ去った詳しい経緯、状況などは、警察署による今後の調べを待つしかありませんが、犯人の供述から希薄な人のつながり、犯罪を抑止できない心の弱さ、「ねじれた性（幼少期から思春期に形成されるといわれる）」などを垣間見ることができます。

　しかし、このような子どもをめぐる「誘拐事件」や「監禁事件」は珍しいことでないのです。

　犯罪件数は減りもせず増えもせず、なかなかなくならないのが現実です。また、「変な人について行かない！」と指導しても見かけは「変な人」でないため、子どもは警戒しません。

　一般的に加害者は若い男性（１０代後半から３０代）が多く、見かけもこざっぱりとしたイケメンタイプが多いようですが、内心は陰気で、人目を気にする性格であるといわれます。

　手口としては、ことば巧みにだまし、人目のないところに連れて行って、性的行為に及ぶものです。犯行は衝動的で、計画性はなく、凶器を使うことも少ないのが特徴です。

　今回の事件は、二学期始めに犯行が続いたことや計画的で、凶器（名古屋では、父親が殺害される）を使って脅迫したことが、「特異な事件」として目につきます。広島で逮捕された男性は事前にホテルを予約し、果物ナイフで脅迫し、かばんの中に詰め込むという手口でした。名古屋での男性は集団登校の時間をねらい、抱きかかえて自宅へ連れ去るという手口でした。

 **３．禍を避けるために**

　事件を受けた広島市教委や学校は、①人通りの多い道を使う②外出時は防犯ブザーを携帯する③外出する際はできるだけ複数で行動する④夜間は不要な外出は控える……などを子どもたちに指導したようですが、性犯罪を抑止する方途として心したいことがあります。

　それは、昔からいわれてきた**「人のいないところに行かない」です。つまり、子どもを「一人にしない」ということです。子どもが誘拐されたり監禁されたりする事件は、必ず人目のない、子どもが一人のときなのです。周りに大人が一人でもいれば、禍を避けることができるのです。**

　ですから、子どもたちには安易に「自分は強い」「自分は被害に遭わない」と思うことをめ、「一人で、人のいないところへ、絶対に行ってはいけない」と強く教えたいものです。